

発達障害学生を取り巻く支援体制に  
関する情報収取の取組について  
就労移行支援事業所へのアンケート報告

# 本日の報告の流れ

---

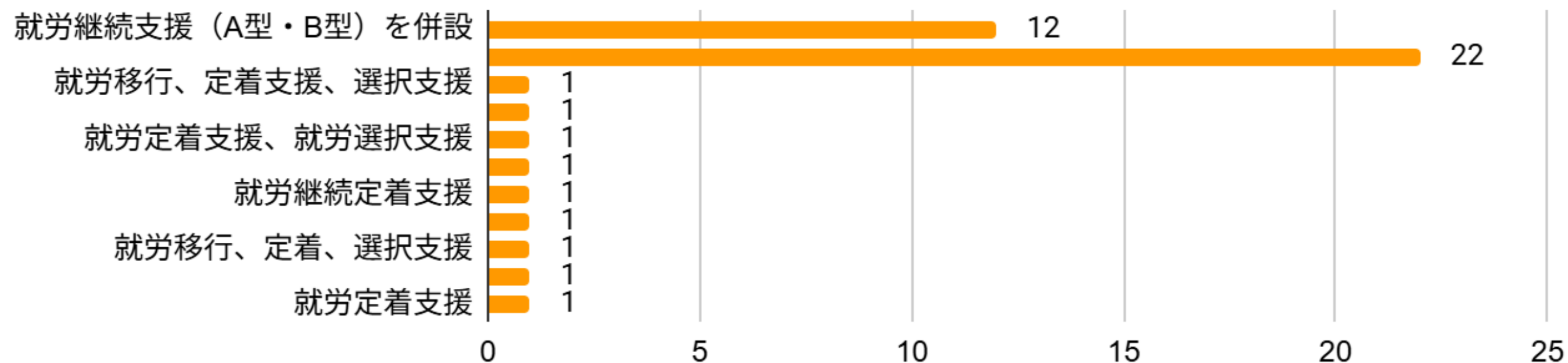
- 01 実施の概要と調査目的
- 02 地域における支援資源の基礎的状況
- 03 支援の実施状況と課題
- 04 自由記述からみえる現場の声

## 01 実施の概要と調査目的

### アンケート実施概要

- 目的 : 発達障害のある、またはその可能性のある大学生に対する配慮や支援のあり方を検討し、より適切な支援体制の構築を目指す
- 対象 : 横浜・川崎市内の就労移行支援事業所 137事業所
- 実施方法 : Googleフォームによる回答（メール及び郵送にて通知）
- 実施期間 : 2025年11月～2026年1月（約2ヶ月間）
- 回答数 : 43件（回答率31.3%）

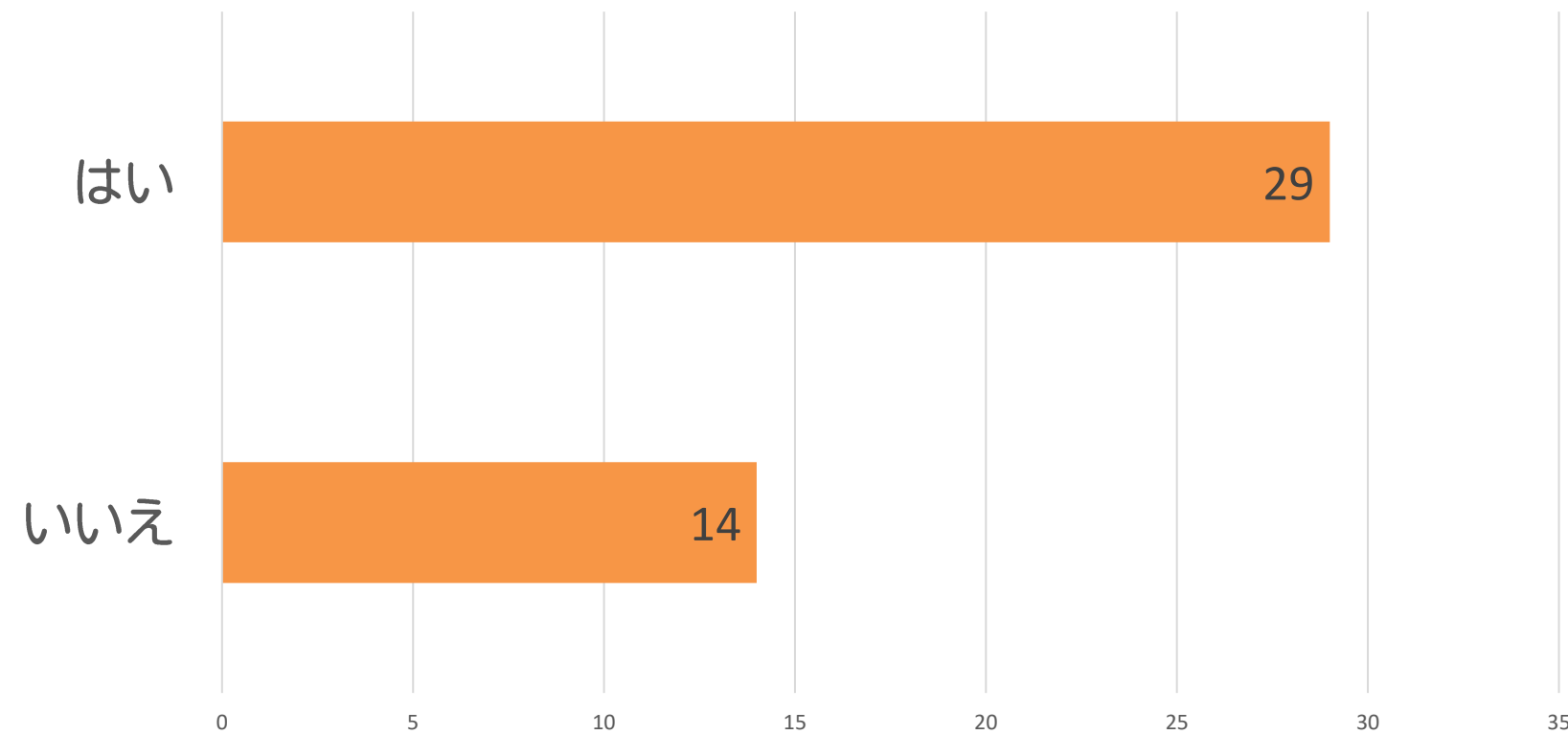
## 「事業所の種別」



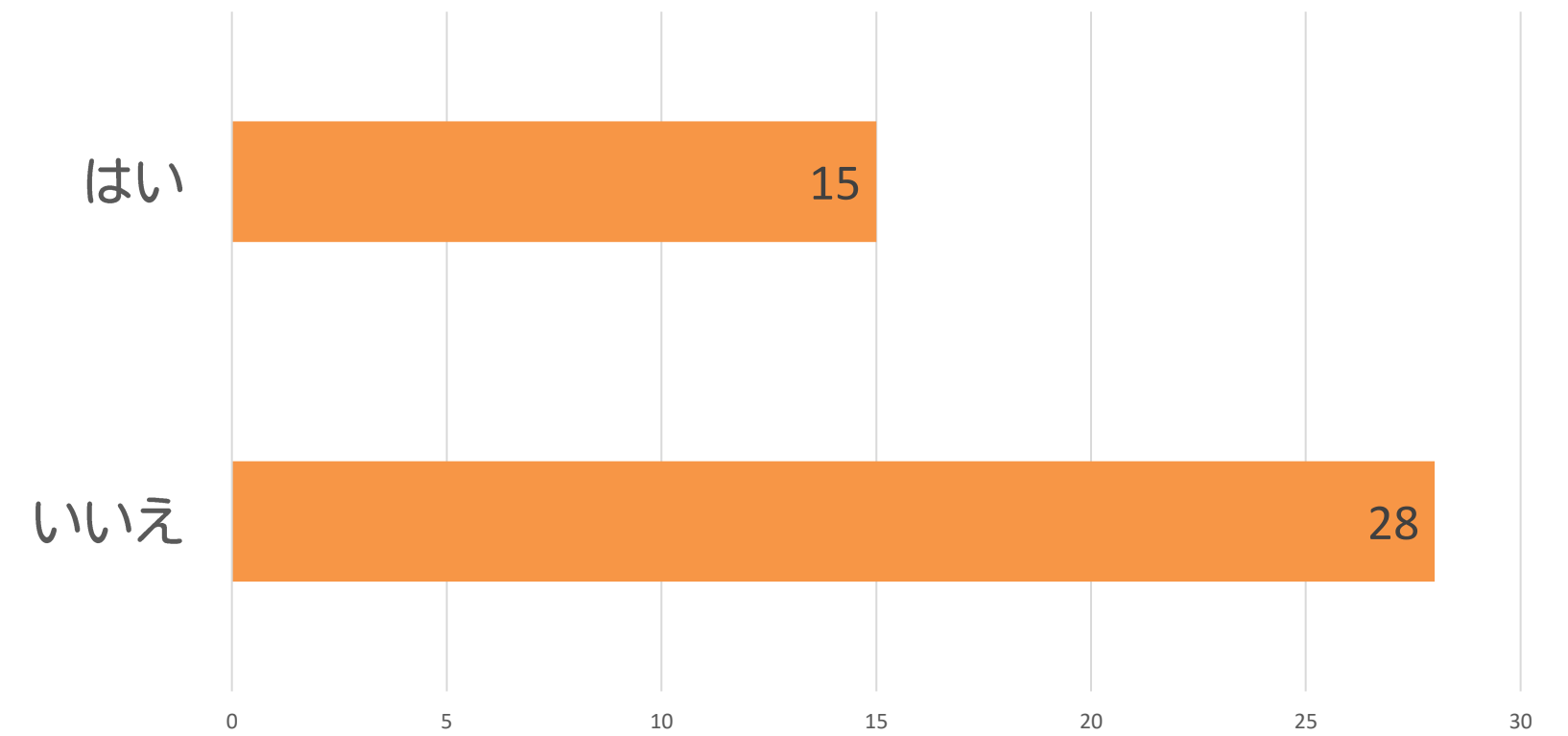
「貴事業所の種別について教えてください」のカウント数

- ・ 就業移行支援単独、就業継続支援との併設が圧倒的に多い

## 大学在学中もしくは新卒者の 受け入れ状況



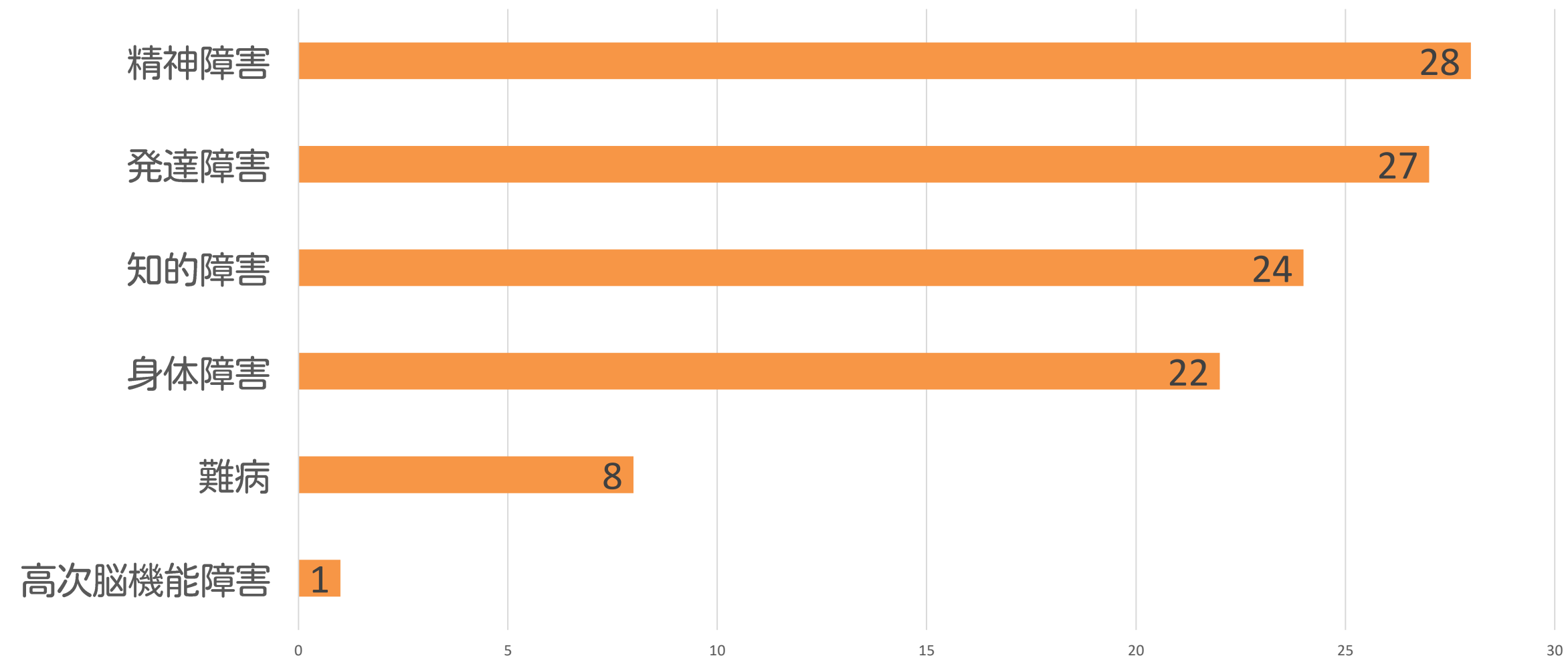
## これまでに大学生を受け入れた 実績状況



- 現在受け入れている状況は「はい」が同様に約2倍
- 一方、これまでの大学生の受け入れ経験は「いいえ」の回答が約2倍

# 受け入れている学生の障害種別

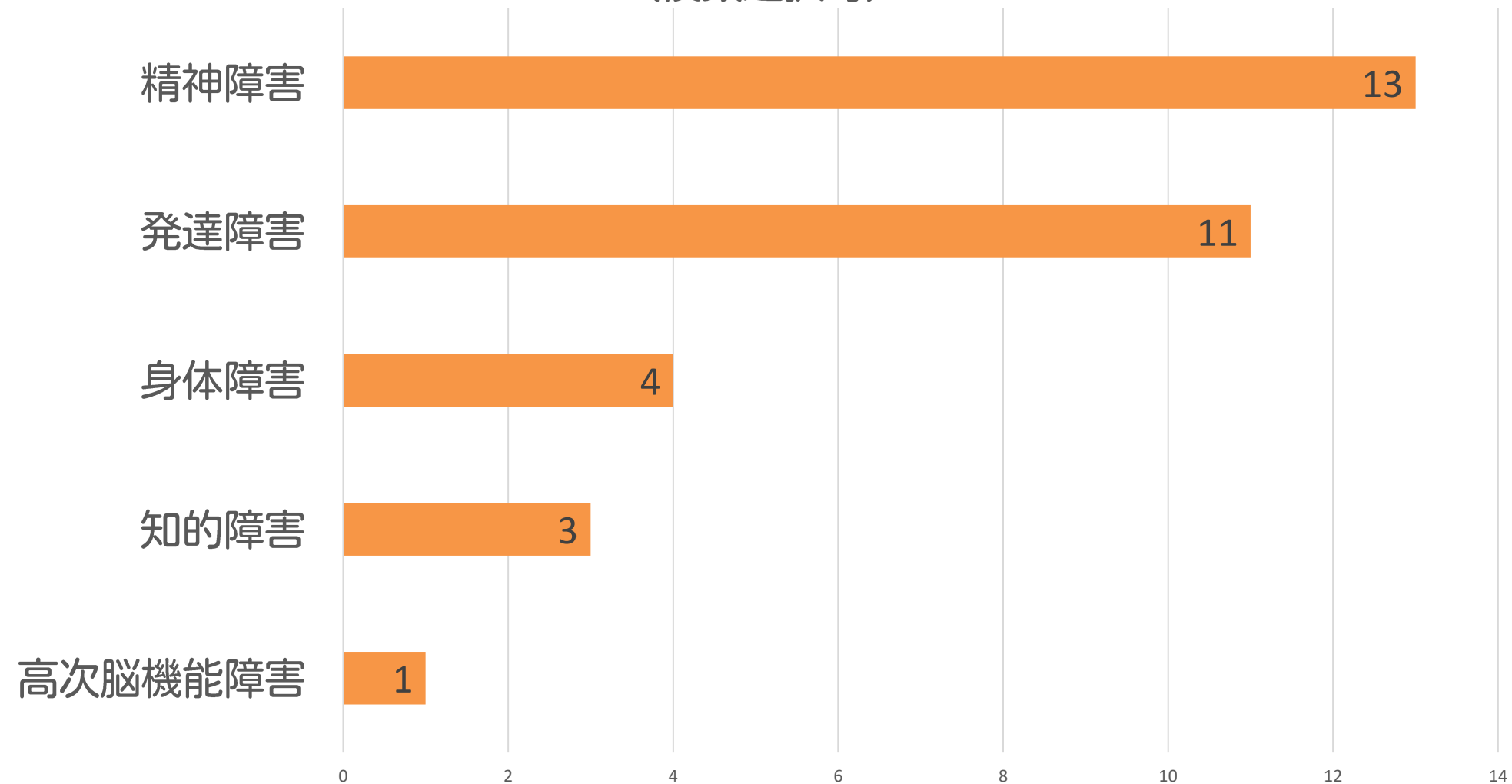
(複数選択可)



- 受入れをしている多くの事業所では発達障害学生を支援している
- 障害が重複している学生も多い

## 受入れ実績のある大学生の障害種別

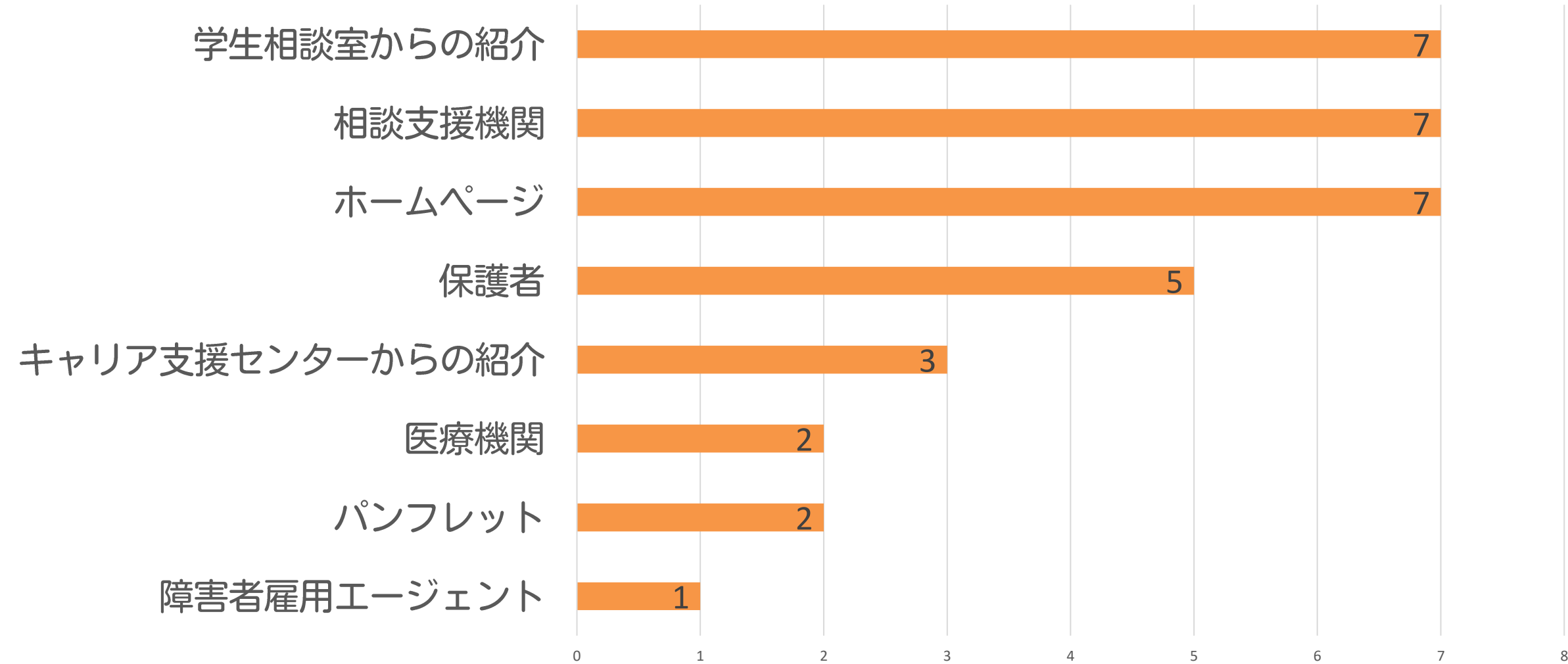
(複数選択可)



- 過去実績においても、現在の結果と同様の傾向が見られる
- 今回の結果では、発達障害のある方は精神障害も重複していた

# 支援に繋がった経路

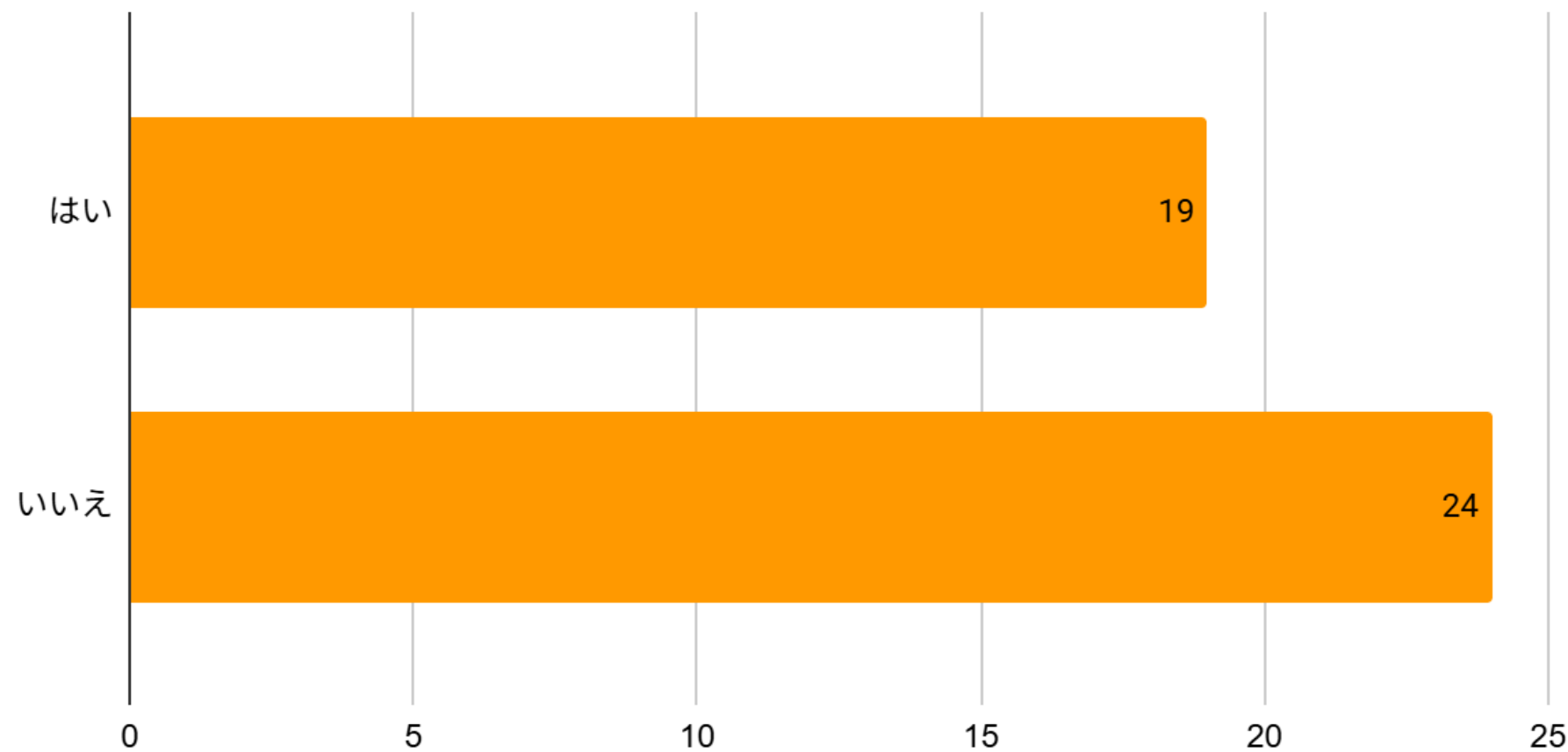
(複数選択可)



- 支援に繋がった経路は、本人や家族、大学、医療・福祉と大差なく分かれている

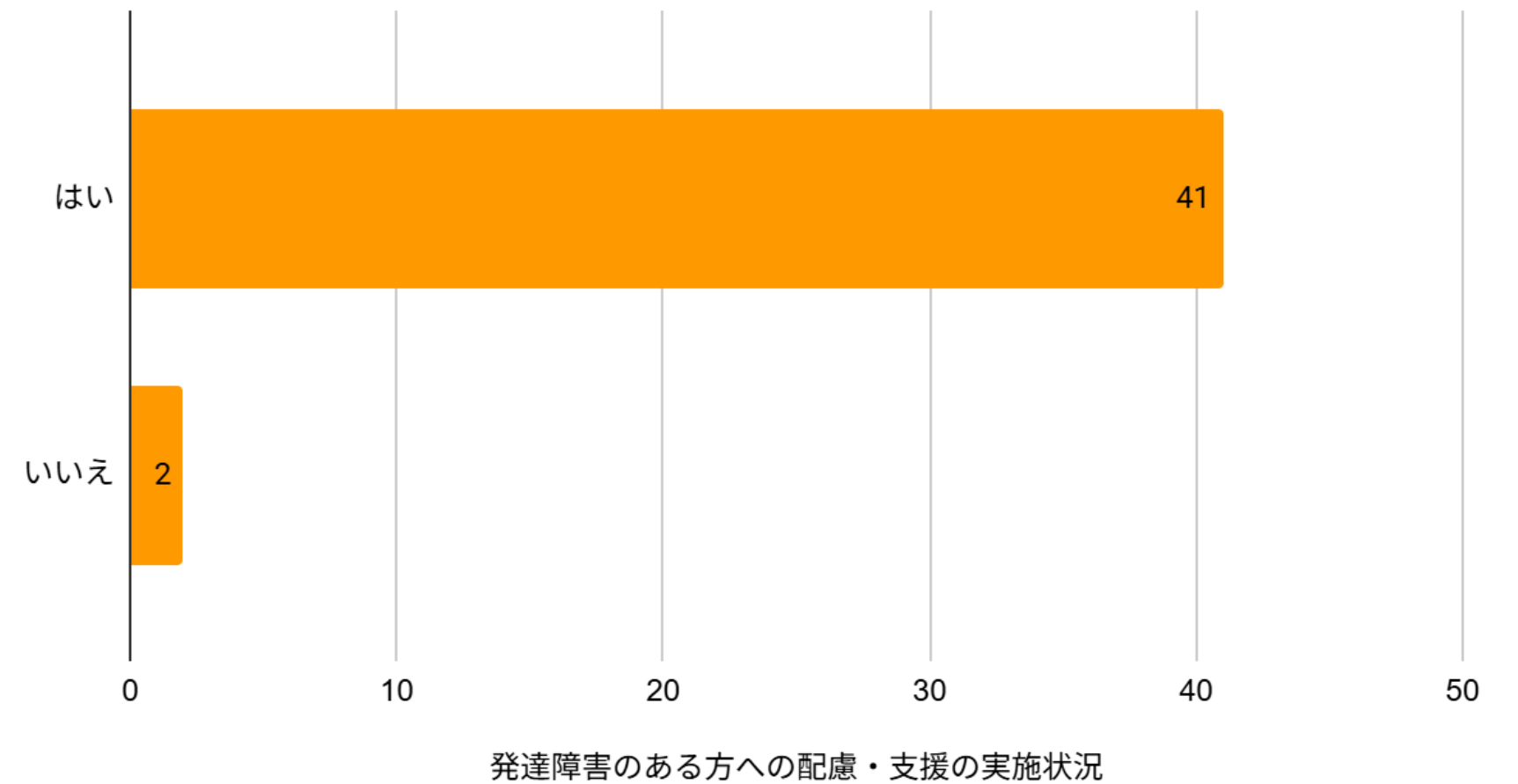
### 03 支援の実施状況

「発達障害のある大学生を対象とした支援や活動状況」



「発達障害のある大学生を対象とした支援や活動を行っていますか？」のカウント数

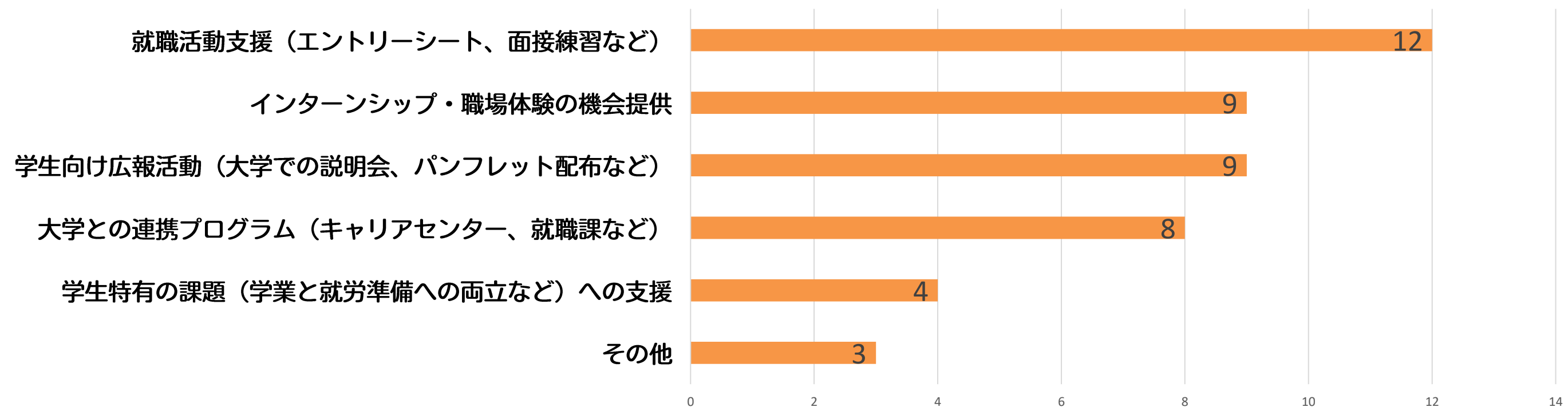
「発達障害のある方への配慮・支援の実施状況」



発達障害のある方への配慮・支援の実施状況

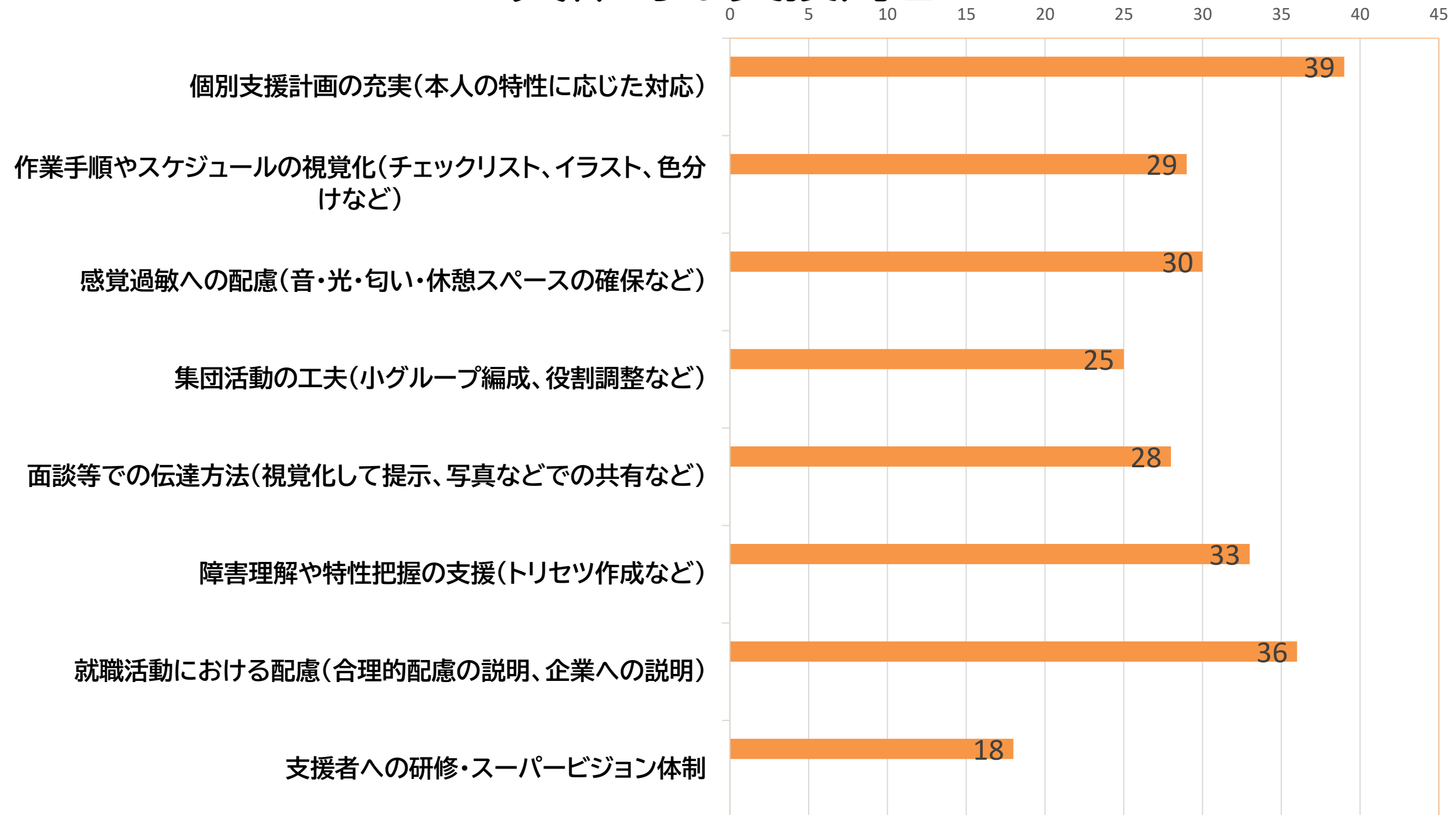
- 大学生を対象とした支援は未実施の事業所が多い
- 発達障害のある利用者には、特性に応じた配慮や支援を行っている

# 大学生に行っている支援内容 (複数選択可)



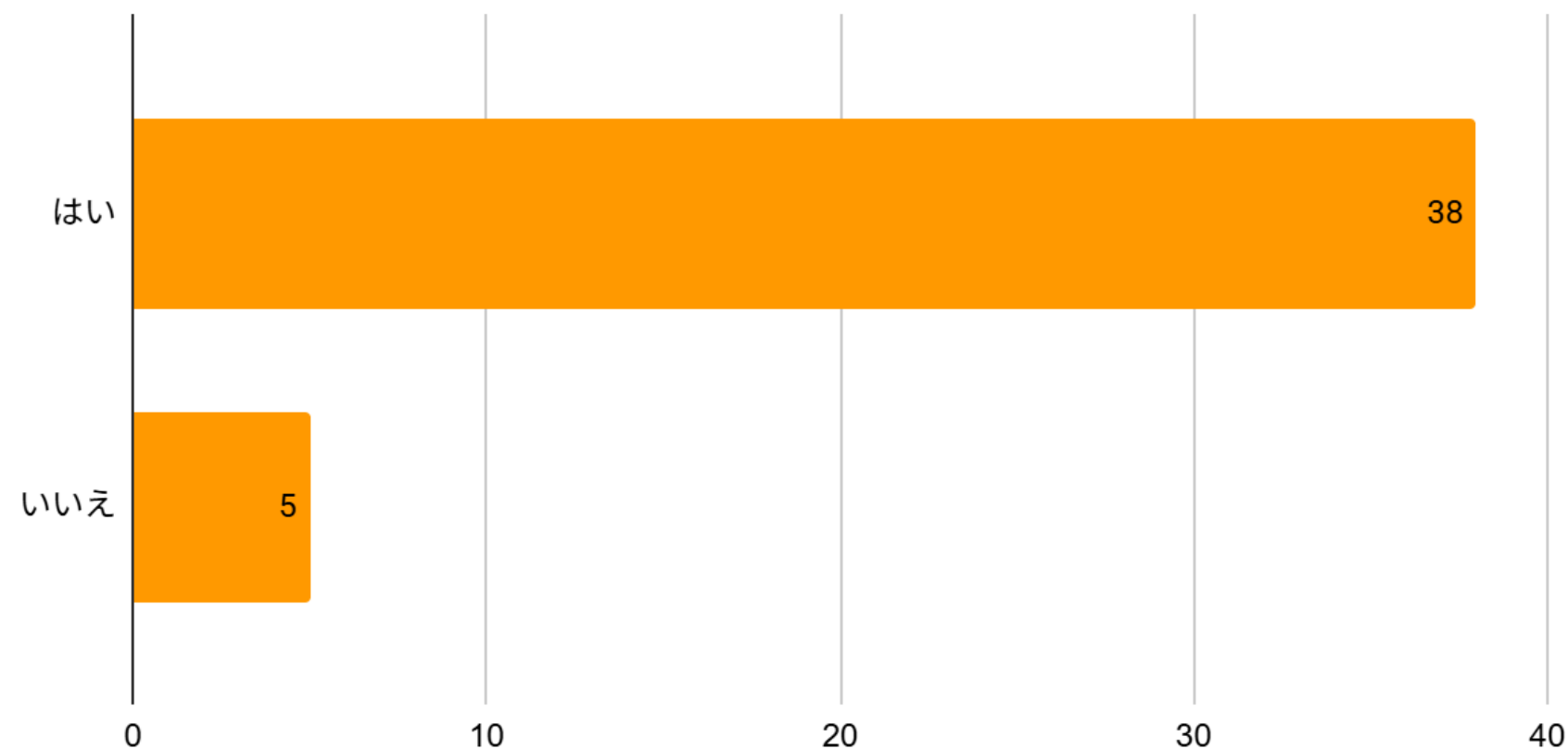
- 大学生に対しては就職活動支援、インターンシップ等個人に対して行うものと、大学との連携や広報活動等対象学生全体に対して行うものに分かれている
- その他では企業訪問イベント、悩みごとを共有する会、オンライン仕事体験

# 具体的な支援内容



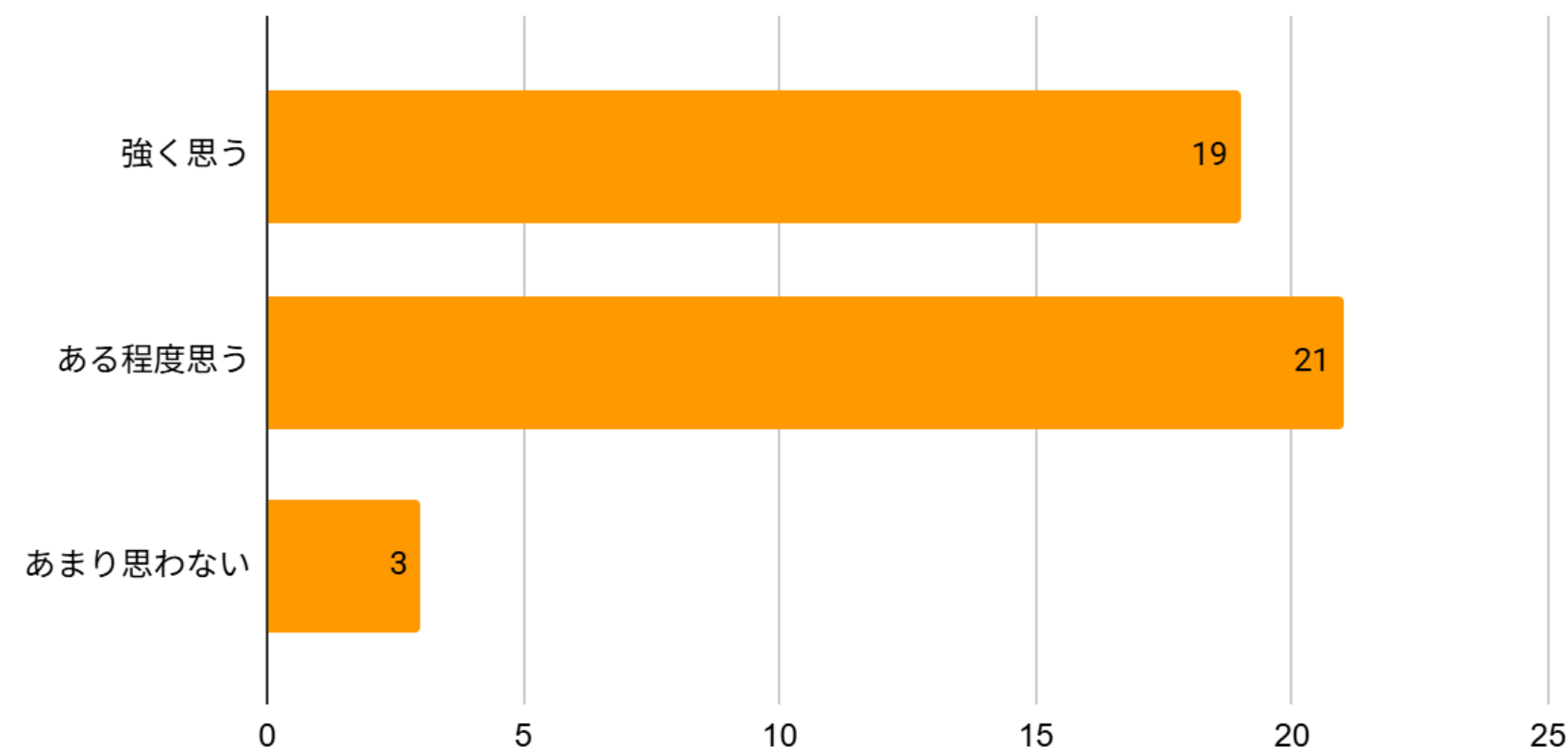
- 具体的な支援は、発達障害の特性に考慮した支援が中心になっている

「発達障害支援について課題の有無」



「発達障害支援について課題を感じることがありますか？」

「就労移行支援事業所は大学生支援に取り組む必要の有無」

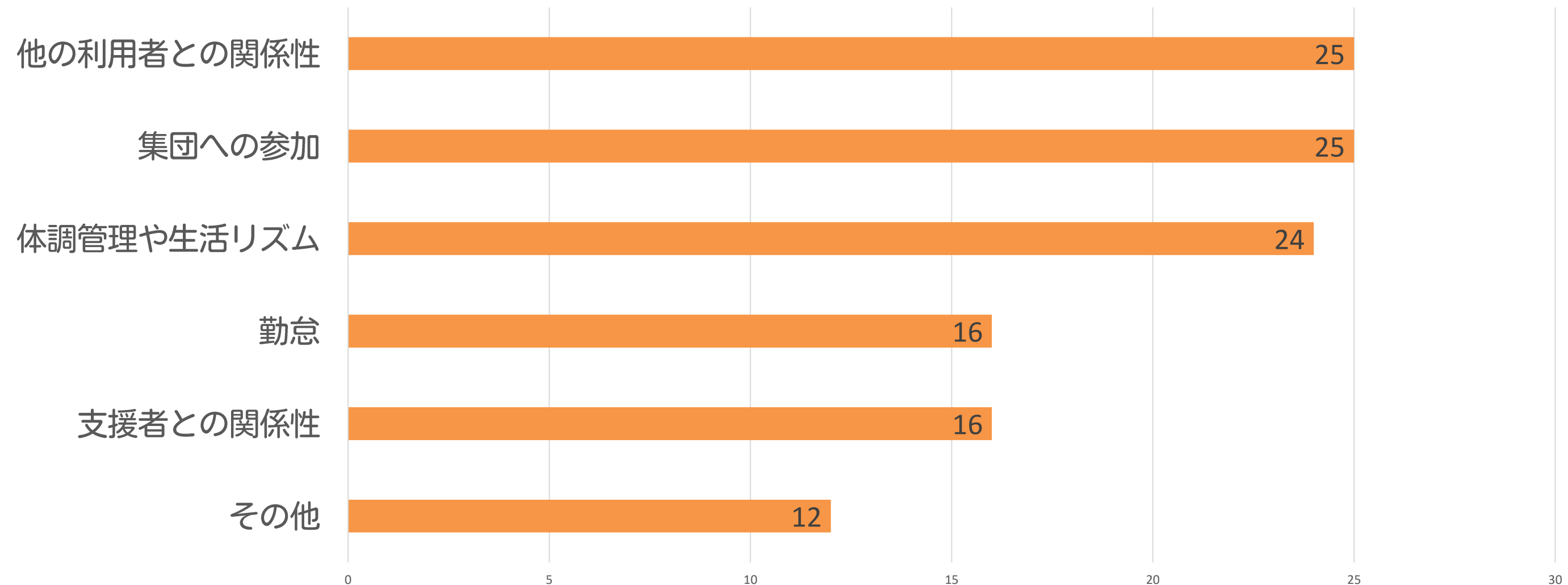


「今後、就労移行支援事業所は大学生支援に取り組む必要があると思いますか？」

- 発達障害支援について課題を感じている事業所は多い
- 大学生支援に取り組む必要性があると大半の事業所が感じている

# 事業所からみる本人の課題

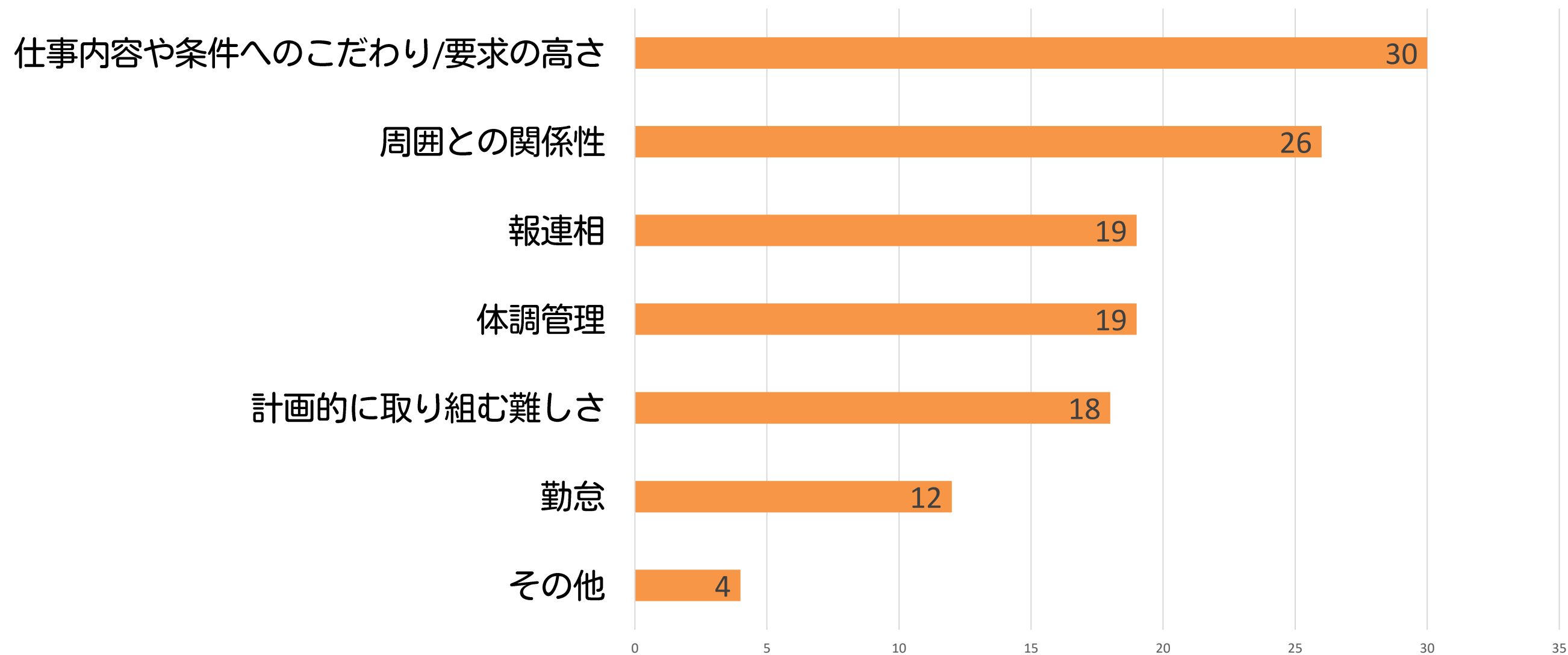
(複数選択可)



- 事業所から見た本人の課題は、集団への参加、他者との関係性、体調管理等コミュニケーションと生活に関する項目が多くを占める
- その他は、自己理解、他者理解、家族との関係性、障害受容などが挙げられた

# 就職や職場定着への課題

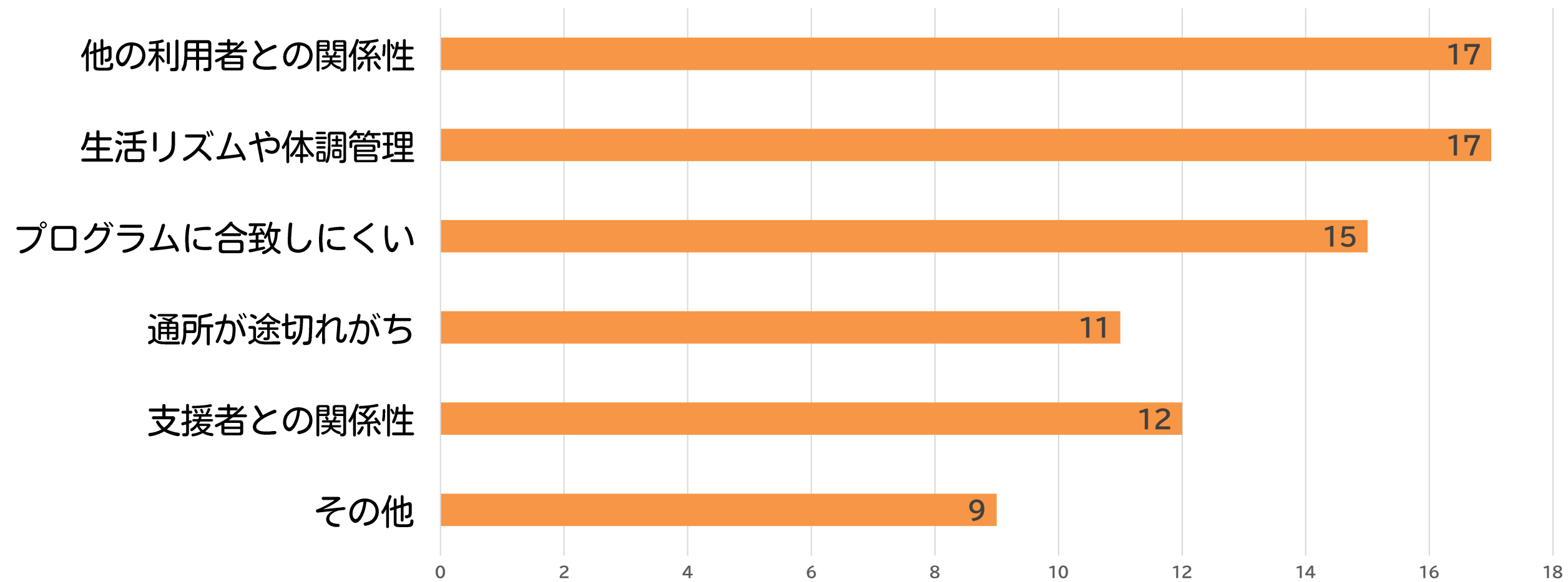
(複数選択可)



・その他としては、ジョブマッチング（企業内調整等）、報告の質、感情表出の困難さ、個別性の高さなどが挙げられた

# 事業所としての課題

(複数選択可)



- 本人の課題と重なる部分が多い
- 既存のプログラムに合致しにくい現状を課題と感じている事業所が多い
- その他は人材育成、重複障害に対する対応などが挙げられた

## 効果的だった支援内容

## ①視覚的支援・構造化支援

- 視覚的支援
- 作業手順書
- 構造化
- スケジュール提示
- 明確的指示/具体的指示
- スモールステップの提供

## ②自己理解・強みを活かす支援

- 自己理解プログラム
- 講座、グループワーク
- 体験を通しての振り返り
- 興味関心、ストレングスを活かす

## ③安心できる環境・関係性の構築

- 安心できる場の提供
- 信頼関係の構築
- 感覚特性への配慮
- 環境調整

## ④連携・支援体制の充実

- 家族支援
- 本人、関係機関との情報共有
- 支援者のスキルアップ

# 事業所利用前に本人が経験できていると良いこと

## ①生活リズム・体調管理の課題

- 生活リズムの安定
- 体調管理
- スケジュール管理
- 基本的な生活習慣
- 身だしなみ

## ②自己理解・特性理解の困難性

- 障害特性の把握
- 自己理解
- 強みの理解
- 困り感の整理
- 目標設定のすり合わせ

## ③社会性・対人スキルの課題

- 挨拶
- 話し方
- 感情の伝達
- 社交情報の未獲得
- 連絡への対応

## ④経験・支援体制の課題

- 早期の就労体験、インターン
- 療育経験
- 進路選択の情報不足
- 大学との連携
- 家族の理解

# 事業所で取り組みたいこと

## ①在学中からの早期支援・体験機会の充実

- 在学中からの段階的体験参加
- インターン
- 進路選択としての情報提供、体験会
- 見学会の実施
- 就職活動が行えない、卒業に至らないケースへの早期支援

## ②大学との連携・広報

- 大学との連携
- ニーズ把握のための活動
- 就労移行支援事業所の広報活動
- 本人、家族への発信
- 支援事例の実績

## ③自己理解・セルフケアの強化

- 自己理解促進プログラム
- 困りごとの整理及び対処
- 障害理解、配慮事項の説明
- 二次障害への対応
- ラポール形成

## ④多職種連携、支援体制強化

- 医師、心理士との連携
- 社会資源の情報提供
- 事業所内の人材育成
- 安心、安全な場の環境

# 大学や発達障害者センターに求めること

## ①連携・情報共有の仕組みづくり

- 顔の見える関係
- 定期的な情報交換
- 連携の場の設定
- キャリアイベントでの連携
- 事業所ヒアリングの継続

## ②早期からの利用・体験機会

- 大学3年次からの通所
- 見学、体験の早期案内
- インターン活用
- 就労移行支援の選択肢の紹介

## ③グレーゾーン、診断前支援

- ハードルの低い相談窓口の設定
- 生きづらさを感じる学生への支援
- 制度利用の機会づくり

## ④支援体制の強化

- 相談員の増員
- 研修機会の提供
- 専門性向上
- 多職種連携